都市デザインにおけるオブジェの意義に関する基礎的研究

柴 田 恵 子*
斎 藤 潮**
中 村 良 夫**

A Study on the Settlement of "Objects" as a Method of Urban Design

Keiko SIBATA
Usio SAITOU
Yosio NAKAMURA

摘要：本研究は、屋外に設置される彫刻作品やそれに類する作品を「オブジェ」と総称し、その設置の際に考慮されるべき意味的調和の理念を構築することを大きな目的とする。この目的のため、アンケート調査を実施し、その結果を意味関連図に整理することによって、意味関連の型式を抽出し、オブジェ設置の際の関連図の有用性を呈示した。

1. 研究の背景・問題提起

昨今、彫刻作品や、それに類する造形物（オブジェと総称しよう）を都市に設置する試みが多数みられるようになった。しかし、それらの中には、意味的な整合性が欠けたり、大きさが周辺のしつらひとはアンバランスであったり、というように、野放図におかれたものも多く見受けられるのが現状である。

本研究の論点は、そうした現状を鑑みて、オブジェを都市に設置する際にはその設置場所とのつながりを重視するべきであり、そのつながりを生み出すためには如何なる条件を満たすべきか、という点にある。そうした視点からアプローチして、オブジェは、その設置場所の性質をより強調する存在となり得、また、新たに付加されることによって空間のコンテクストを発展させる存在とみなし得るものとして、その新たな意義を考察するものである。そして、都市の秩序や調和といった概念を踏まえた上で、設置場所と適合し、かつ、鮮やかな印象で空間をまとめあげるようなオブジェと場所の関係を考え、その設置を都市デザインの重要な手法として提起したい。

なお、分析の対象となった事例は、筆者自身の探索、人からの伝聞、文献などを手がかりとして、東京、横浜、名古屋、長崎等の都市内及び、その周辺部に取材し、写真撮影、実測、記述によって記録した。（表1）

2. オブジェに導入されるべき調和概念

都市空間において設置されるオブジェは、美術館や博

表1 収集事例一覧

No.	オブジェの名称(仮称含む)	オブジェの特色	オブジェの所在地	所在地の特色
1	大黒様	半具象	千代田区大手町 三和銀行	エントランス前
2	透かしら	抽象	千代田区大手町 東京海上火災ビル	建物の前庭
3	えびす像	半具象	千代田区大手町 東京海上火災ビル	ビルの前庭
4	いのち	抽象	千代田区大手町 東京消防庁	エントランス前庭
5	黒の石造	抽象	千代田区大手町 三和銀行皇居側	エントランス前
6	像	具象	台東区 上野公園上野の森美術館	エントランス
7	男のトルソ	具象	台東区 上野公園上野の森美術館	エントランス
8	お母さん	抽象	台東区 池袋 池袋駅西口	エントランス前
9	(向い合う二対の像)	具象	渋谷区宇田川町 西武百貨店A,B館	歩道橋
10	NANAKO	半具象	渋谷区宇田川町 西武S.E.D.館前	エントランス脇
11	平和1	抽象	横浜市中区馬車道 青少年センター	エントランス脇
12	海辺の少女	具象	横浜市中区馬車道 丸井馬車道店	CD前
13	黒の鳥	抽象	新宿区西新宿 新宿野村ビル	エントランス脇
14	平和の鳩	具象	東京都八王子市 八王子市役所	エントランス前
15	海と少年	具象	東京都八王子市 八王子市役所	エントランス前
16	道徳神	具象	渋谷区宇田川町 西武LOFT館前	分かれ道
17	緑	半具象	新宿区西新宿 住友三井ビル	広場の境
18	赤と青	抽象	新宿区西新宿 住友三井ビル	広場の境
19	野東C・まどか	具象	新宿区西新宿 住友三井ビル	広場の境
20	対峙	具象	新宿区西新宿 住友三井ビル	広場の境
21	鳥	具象	新宿区西新宿 住友三井ビル	広場の境
22	像	具象	新宿区西新宿 住友三井ビル	広場の境
23	ないしょ	具象	新宿区西新宿 住友三井ビル	広場の境
24	アルファ	抽象	豊島区東池袋 池袋駅東口	道路中央緑地帯
25	小松重彰仁親王	具象	台東区 上野公園	この像の隣の広場
26	ボードワン像	具象	台東区 上野公園	遊歩道脇
27	野口英世像	具象	台東区 上野公園	遊歩道脇
28	いけふくろう	具象	豊島区東池袋 池袋駅東口	B1コンコース
29	結と女	具象	横浜市中区 シルクセンター	エントランス脇
30	赤い髪はいた女の子像	具象	横浜市中区 山下公園	この像の隣の広場
31	やくそく	具象	横浜市中区 山下公園	公園の区画の一部
32	水の守護神	具象	横浜市中区 山下公園	噴水の中
33	かめめの水兵さん	歌碑	横浜市中区 山下公園	区画された部分
34	(座っている少女)	具象	東京都町田市 小田急町田駅	駅前広場
35	魁の鳥	半具象	横浜区西区 横浜駅西口	駅前地下街
36	西郷隆盛像	具象	台東区 上野公園	広場
37	オランダ船	具象	千代田区丸の内 三愛電気	歩道脇
38	大地の像	具象	豊島区東池袋 池袋駅東口	道路中央緑地帯
39	若い女	具象	横浜市中区 伊勢崎駅モール	モールの中
40	えびす像	具象	渋谷区恵比寿南 恵比寿駅前	歩道の脇
41	はくれつ子	具象	中央区銀座 歌舞伎町交差点	横入込みの中
42	マ・ネリイ像	半具象	豊島区東池袋 池袋駅東口	外壁の上
43	大地の母子	具象	横浜市中区 馬車道丸井馬車道店前	歩道の脇
44	新島	抽象	新宿区西新宿 住友三井ビル	歩道の脇
45	たまちゃん	半具象	新宿区西新宿 住友三井ビル	案内板の前
46	滝	半具象	品川区大崎 大崎CITY	広場の境
47	少女	具象	横浜区西区 横浜駅東口	地下街入り口脇
48	母子像	具象	豊島区東池袋 池袋駅東口	駅前歩道脇
49	(海を見る人々)	具象	豊島区西横濱 新西横町 オランダ村	岸線に面した見える
50	(産む母子像)	具象	名古屋市中区 エンゼルパーク	ベンチに寄る
51	(マリイ像)	具象	長崎県長崎市 大浦天主堂前	エントランス
52	(むかえ)	具象	埼玉県宇都宮市 宇都宮駅前	駅エントランス

*環境庁大気保全局企画課

**東京工業大学工学部社会工学科

物館の内部に鎮座する彫刻作品とは決定的な相違点をもつ。それは、作品に対する評価尺度の一つとして、〈場所にふさわしい場所にそぐわない〉という、いわば「場所への調和」という観点からの評価が存在する可能性が大であるという点である。以下、「場所への調和」について考察する。

都市空間へのオブジェの設置に関しての調和概念は二つに大別できる。一つには知的好奇心に訴える思考的調和概念、もう一つには美的感覚を満足させることによる視覚的調和概念とである。前者は、オブジェと設置場所とが意味上の整合性を持ち、そこに存在する特定の意味が、みる人の知的好奇心を刺激し、読み解かれることによって、その好奇心が満足される、という仕組みを持つ調和概念である。後者は、作品と設置場所との色合いやボリュームの比といった点でのバランスが、それをみる人に視覚的満足感を与える、という仕組みを持つ調和概念である。この二つの調和条件が相互に働き合うことによって、調和感を人が持つと考える。

これら二つの調和概念に基づいて考慮されるべき条件は多々考えられる。本研究では、都市デザイナーが空間を演出する際に利用できる汎用性の高い条件として、思考的調和概念の中核をなす、「意味の整合性」という条件を中心に論を進めることにする。

3. 意味の調和

(1) アンケート調査の概要

本研究では、意味の調和という概念が、オブジェを見る人にどんな形で現れるか、を、アンケート調査を行って確かめた。このアンケート調査は、収集した事例の中から7つの事例を呈示したもので、80部を配布し、71部を回収した。被験者は学部を問わない大学生を対象とし、その男女比は、男性43、女性28であった。

アンケート調査の概要は次の通りである。

1) オブジェの写真と、場所を表現する語句を集めた語群とを呈示する。

①写真は、たまたま同時に写し込んでしまった周囲の状況からの判断をオミットするために、作品部分だけを切り取った写真を用いた。

②この語群に挙げた場所を表す語句は、次のように選出した。まず、収集した事例に関して、場所に関する情報(「銀座」、「八王子」といった具体的地名、「オフィス街」、「高層ビル街」、「歓楽街」といったように、街に集積した機能や形態を代表する名詞、「丘」、「坂」といった地形を表す名詞、等)をすべて書き出し、整理した。そして、その語群を、このアンケートに先立っておこなったプレアンケート調査に用いた。(区別のために、プレ語群としておこう)そして、プレアンケート調査の際に、プレ語群以外から、適切な場所として、被験者が選んだ

場所の名前を、プレ語群に加え、さらに整理して作成した語群を本アンケートに用いた。

2) 呈示されたオブジェの作品に対して、以下の書式で、設置に適切であると思われる場所の名前を語群から選ばせ、そして、適切であると考えた理由を下線部に書かせる。

この作品に対して

私は A を選びます。

なぜならこの作品は、 B なので

この場所の C に合っていると思うから。

①理由は、オブジェに対しての理由を下線部Bに、場所に対しての理由を下線部Cに、それぞれ自由に列記してもらった。

②語群からの選択について

a・語群から複数個の語句を選んで組み合わせて使ってもよいことにした。

b・プレテスト同様、語群以外からも、設置場所として適切と思われる語句があれば、選択してもよいことにした。

c・どこにも置きたくない場合にも、なぜそう思うか、以下の書式で理由を書かせた。

・どこにも置きたくないという場合

私は、この作品をどこにも置きたくない。

なぜならこの作品は だから。

③理由を求める文章の文末の「合っている」という表現を使わなくともよいことにした。

このアンケート調査において現れたオブジェと場所との意味の連関を、7つの作品ごとに図にした。(以下、連関図と呼ぶ。)連関図を起こすにあたっては、先の書式の、Bに記入された語句をオブジェから発生する意味として、Aに記入された語句を設置に適切とされた場所として、Cに記入された語句を場所から発生する意味として、それぞれ整理した。その結果、オブジェと場所との意味の連関は、3つに分けられた。

それらの連関図への記入手順を次に示す。

例)意味を強める場合(マリア像を提示した場合)

この作品に対して

私は 美術館 を選びます。

なぜならこの作品は、崇高 なので

この場所の 高貴さ に合っていると思うから。

という回答が得られた場合、連関図には次のように記

入する。

オブジェから発生する意味

例) 意味を弱める場合 (マリア像を提示した場合)

という回答が得られた場合，連関図には次のように記入する。

オブジェから発生する意味

例) その他の場合 (マリア像を提示した場合)

この作品に対して

私は 教会 を選びます。

なぜならこの作品は、慈愛を表す なので

この場所の 神聖さ に合っていると思うから。

という回答が得られた場合，連関図には次のように記入する。

オブジェから発生する意味

図1はサンプルナンバー51、長崎・大浦天主堂エントランス前にある、「日本之聖母像」(写真1)についてのアンケート結果を連関図にしたものである。

この連関図から、Ⅰ・どの様な意味が発生することによって見る人が連関を感じるか、Ⅱ・連関によって、オブジェの置かれた空間の性格がどの様に変化して感じられるか、という点を主な焦点として考察する。(以下、Ⅰについては(2)で、Ⅱについては、(3)で詳しく述べる。)

図1 オブジェ（マリア像）と場所とのイメージ連関図

写真1 日本之聖母像(サンプルナンバー51;長崎県長崎市・大浦天主堂前)

(2) 意味の発生と連関

連関図においては、オブジェと設置場所に関する連関は主に次の二つに分けられる。それは、

① アンケート調査の際に提示されたオブジェの表す一般的内容から発生する意味の連関(主に名詞や動詞で表される)

② アンケート調査の際に提示されたオブジェそのものの形状・素材から受ける感じから発生する意味の連関(主に形容語で示される)

①での被験者の連想には被験者間に類似がみられる。(連関図においては、オブジェそのものから発生する意味の中で、○で囲ったもの)

②での被験者の連想はまちまちである。(連関図においては、オブジェから発生する意味の中で、□で囲ったもの)

なお、連関が前述の二つに当てはまらない場合は、連関図において、オブジェから発生する意味の枠の中で○で囲った。

①について、図1の連関図から実際にその例を見てみよう。マリア像のオブジェから発生する「神聖」という意味から連想される「おごそか」という意味が、設置場所として『教会のエントランス』を選択する基準となっている(例1)。同様に、オブジェから発生する「救い」という意味から連想される「あぶない」という意味が、設置場所として『研究所の前庭』を選んでいる(例2)。(例1と2の相違点については、(3)の項で述べる。)

この様に、オブジェとその設置場所とが整合性を持つと人が考えるのは、オブジェの内包する意味と設置場所の内包する意味とが、何らかのつながりを持つことが重要になっている。この連想を言語体系の中で類型化しているのが修辭——レトリック——である。

池上嘉彦の「記号論への招待」によれば、言語体系における意味伝達系には、メッセージを構成する記号とその意味を、発信者と受信者とが共通に理解する決まり(コード)が存在するとされている。つまり、オブジェをみる人は、オブジェに対して、また設置場所に対して、それぞれ自体を、一般的あるいは特異的に人が持っている多数のコードを参照して読み解く。その読み解かれるものが、オブジェの、設置場所の内包する意味なのである。コードの多様性に任せれば、オブジェの設置された空間は意味的に茫洋としたものになってしまう。しかし、設置されたオブジェを見る時には、コードを参照してオブジェを読み解く知的作業と、同じく設置場所を読み解くことが同時並行して行われる。つまり、オブジェと設置場所とからそれぞれ発生する意味群を対照することによって、二つの意味群に共通するもの(あるいは、対となって相反するもの)を浮かび出させることができる。この共通点(あるいは、相対点)がオブジェとその設置場所との意味的なつながりの整合性を担っており、その整合性を見る人が感じるときにそのオブジェが「場所にふさわしい」という評価を受けると考えられる。

そこで、本研究においては、連関図においてオブジェと設置場所とから発生する二つの意味群が共有する意味(あるいは、対となって相反する意味)に着目した。そして、言語体系において、意味の共有その他を手がかりにして文章を鮮明に印象づけるレトリックの手法を参照し、オブジェが設置場所と特定の意味を如何にして共有するかに着目して、収集した事例の特徴を抽出、分類した。(表2)

具体例を示しながら、いくつかの型式を説明しよう。

隠喩型の説明に先立って、まずレトリックの手法の一つである隠喩を説明する。佐藤信夫の「レトリック感覚」によれば、隠喩とは、ある語句(aとする)の本来の意味と、aが臨時に示す、本来は他の語句(bとする)によって示される意味とが、aとbの類似性に基づいて、そこに相互交錯的な新しい意味が出現することであるとされている。これを、オブジェと設置場所との関係に適用すると、それぞれが内包する意味の類似性をもって結び付ける型を、隠喩型と定義することが出来る。

隠喩型の例を図2と写真2によって示す。写真2は、東京都中央区大手町・東京海上火災ビルのオープンスペースに設置してある、恵比寿様のオブジェである。恵比寿様は、一般的には風折帽子に狩衣、指貫の姿で、鯛を釣り上げた像に作られていて、海上、漁業及び商業の守護神として信仰されている。「海」の神様であることに思い当たれば、設置場所である、『海上火災』の「海」と共通の意味が浮かび上がってくる。また、「守護神」ということに着目すれば、『守る』という海上火災保険会社の仕事内容を隠喩的に表現したものとして考えること

表 2 意味共有型式

調和型式	調和の手がかり	調和の特色・効果	収集事例の番号
隠喩型	オブジェの内包(外延)する意味と設置場所の内包(外延)する意味との類似性	場所とオブジェの類似性を見つけ出す謎ときに人々が参加し、知的好奇心を満足させることで場所を印象づける。	1, 3, 4, 8, 10 16, 41, 45
提喩型	場所への所属物に対するオブジェのアイコン性(場所に関するオブジェのインデックス性)	場所の内容が、その一部分を提示することによって強調され、印象づけられる。	2, 13, 32, 49
由来型	場所の時間的(歴史的)意味に関するオブジェのインデックス性	場所の時間的意味が、銘板等の補助を受けて強調され、印象づけられる。	25, 27, 30, 31 33, 36, 37, 45
代行型	場所の使い方、場所における行動に関するオブジェのインデックス性	場所の使い方(場所の機能)がユーモラスに印象づけられる。	34, 50, 51
駄洒落型	オブジェのシニフィアンと場所の名称、使われ方の名称との音の共有	場所やその使われ方(の名称)がユーモラスに印象づけられる。	28, 40, 52
対句型	二つのオブジェと二つの場所との意味上の呼応関係の対応	二つの場所の呼応関係、または二つの場所の間の空間の存在を強調する。	6, 7, 9
対義結合型	場所とオブジェとの意味上の、通念的な対義関係の対応	対義の対照によって場所の本義を婉曲に示す。	16
ルビ	標題は、言語体系の持つコードの拘束力を背景に、他の調和形式と併用されることによって、オブジェと設置場所の結び付きを浮かび出させる効果を持つ。		4

もできる。

次に提喩型について説明する。佐藤信夫の「レトリック感覚」によれば、提喩とは、全体を部分で、あるいはその逆に部分を全体で代表させる手法であるとされている。よく挙げられる例として、童話の「赤頭巾ちゃん」の命名の仕方がある。これは、様々な属性を持つ一人の〈少女〉に対してその属性の一つである〈赤い頭巾を被っている〉ことに着目し、〈少女〉という全体を〈赤い頭巾〉という部分で代表させて、「赤頭巾ちゃん」と命名しているのである。提喩の手法をオブジェの設置場所の意味内容のインデックス(記号が、空間的接近ないし全体に対する部

分という関係に基づいて記号内容を表現する)としてオブジェが取り扱われる場合が、提喩型として定義されるであろう。

先に提示した写真1について行ったアンケート調査の結果を示した連関図(図1)においては、〈教会〉という全体を〈マリア像〉という一部で表す、という連関が、最も物質的に提喩型を示している。

②については、オブジェと設置場所とのつながりが、オブジェ(及び設置場所)の質感、形状及び色彩によっても表現し得ることを示している。②に区別される連想は被験者の嗜好によって様々であろうことが、考えられる。この点において、オブジェの設置は、事例個々にそれぞれ特異性があり、興味深い論点を持つと考えられるが、今回の研究では一般性のある調和概念の対象としては取り組まなかった。

以上の考察から、連関図の有用性について次のようにまとめることが出来る。

①アンケート調査の結果から連関図を起こすことにより、意味の共有型式を抽出することが出来た。

②オブジェと設置場所の意味連関を二つに分けて整理することが出来た。一つは、オブジェの内容から発生する一般的な意味による連関(連関は主に名詞及び動詞で

写真2 恵比寿様(サンプルナンバー3; 東京都千代田区大手町・東京海上火災ビル前)

図2 隠喩型の例(海上火災-恵比寿様)

表される), もう一つは, オブジェの形状や素材によって付加的に表すことの出来る意味による連関(連関は主に形容語で表される)である。

こうした点で, 演繹的に, 連関図はオブジェが与件になるときの場所選定の有用な道具として位置づけられると考えられる。

(3) オブジェの付加による場所の性格の変化

オブジェは, 設置場所と意味的につながりを持つことによって, 場所全体を印象深いものにすることは前述した。ところで, 連関図において, オブジェから設置場所への意味連関は以下の二つに大別できる。

①オブジェから発生する意味が, 場所の性格の一部分(用途, 形状その他)を強める。(3(1): 例1)

②オブジェから発生する意味が, 場所の性格の一部分(用途, 形状その他)を弱める。(3(1): 例2)

①は, 「神聖」-「おごそか」というように, オブジェそのものと設置場所とに共通あるいは類似の意味を二重写しにして, 設置場所の持つ性格全体の中から一部分を特にクローズアップして強調するという仕組みを持つ。これは, 意味的に茫洋としている場所に対して, 意味の方向づけという役目をオブジェが担っていることを示している。

②は, ①同様に設置場所の一部分を強調するという構造も持つが, オブジェが発生する意味の一部分を用いて, 設置場所の持つ性格全体の一部分を否定する, つまり, 変質させる, という仕組みも持つ。これは, 場所が既に持っている性格を, オブジェを付加することによって, 強調すると共にニュアンスを変えて呈示することが出来ることを示している。

①及び②から演繹すると, オブジェの発生する意味と設置場所の発生する意味を擦り合わせることによって, オブジェが, 設置場所の持つ意味に対して, 強調, 変質, 更には, 新たな意味を創造するものとして位置づけられ

る可能性を示唆している。

4. 結 論

①オブジェに設置場所との調和を求めべく, 調和原理の概念を構築した。オブジェと設置場所との調和原理の諸条件の中から, 本研究では, 特に, 意味の整合性という側面からアプローチした。

②意味の整合性に関して, アンケート調査の結果から連関図を起こした。(図1) 連関図から, 一つには, 意味を共有する場所(連関先)のヴァリエーションも連関を表す語句の種類による違いが提示された。もう一つには, オブジェとその設置場所との調和の手がかりから8つの調和形式が抽出された。(表2) このことから, 連関図の作成が, オブジェの設置を考慮する際の場所選定の手法の一つとして活用出来ることがわかった。

③更に, オブジェの設置が, 設置場所の性格の一部分を変質させる可能性を持つことが示唆された。

この点については, 設置場所の性格を分析する枠組みを検討した上で, 心理実験等によって性格の変質を確認し, その内容を記述していく必要がある。

本研究の成果を活かして設置場所を選択することにより, オブジェは設置場所のイメージを集約・代表する存在となる。このときオブジェは, 屋外彫刻作品, ストリートファニチュア, あるいは修飾物としての単なる鑑賞対象の枠を越え, それを鍵として都市空間を景観的に再編成していくような戦術として積極的意義を持つことになると考えられる。

参 考 文 献

- 池上嘉彦(1984): 記号論への招待 p 39, 岩波書店
佐藤信夫(1978): レトリック感覚 p 83, p 146, 講談社

Summary : The purpose of this study is to find out some rules when we settled sculptures in public space. There must exist the relation between the sculptures and the character of the public space. In this study, 2 views on the relation are suggested. One is the semantic relation, and the other is the relation of scale (scale balances). And in this study, I refer to the semantic relation.

First, the investigations were practiced, and the responses, figures of image linkage were got into shapes. The linkage-system which construct some boundaries between the place and sculptures, were classified into 8 types with reference to rethoric devices.

In the end, it is suggested present that the setting of sculptures in the public space is one of the methods of urban design which reorganize the town scape with a vivid impression.